

殺菌剤の混用が微生物農薬の 殺虫効果に及ぼす影響



写真1 ボーベリア・バシアーナ(ボタニガード ES)
が感染したタバココナジラミ幼虫



写真2 パーティシリウム・レカニ(マイコタール)
が感染したタバココナジラミ幼虫

表 殺菌剤の混用が微生物農薬の殺虫効果に及ぼす影響

殺菌剤名	希釈倍数	ボタニガードES	マイコタール	殺菌剤名	希釈倍数	ボタニガードES	マイコタール
		2,000倍	1,000倍			2,000倍	1,000倍
ロブラール水和剤	2,000	○	◎	スミレックス水和剤	1,000	△	○
ダコニール1000	1,000	△	×	カンタスドライフロア	1,000	◎	○
バイレトン水和剤	1,000	○	×	ストロビー水和剤	3,000	◎	×
イオウフロアブル	500	○	◎	ポリオキシシンAL水溶	2,500	◎	◎
トップジンM水和剤	1,500	△	△	ベルコートフロアブル	3,000	○	◎
トップジンM水和剤	6,000	○	◎	ルビゲン水和剤	6,000	○	○
ラリー水和剤	4,000	△	◎	トリフミン水和剤	3,000	○	○
ジーファイン水溶剤	750	△	◎	パンチョTF顆粒水和	2,000	△	◎

注1) 表中の記号は微生物農薬単用の補正死虫率を100とした場合の割合を示し、×: 25%未満(影響が大きい)、△: 25%以上50%未満(影響がある)、○: 50%以上75%未満(影響が小さい)、◎: 75%以上(影響がほとんどない)を示す。

2) 所定濃度に調整した薬液(対照はイオン交換水)に、タバココナジラミの幼虫が寄生したシントウ葉を10秒間浸漬した。風乾後、水で湿らせたろ紙を敷いた直径9cmのプラスチックシャーレに1枚ずつ入れ、25℃、16L-8Dの恒温器内に5日間、または20℃、16L-8Dの恒温器内に7日間静置した後、幼虫の生死を調査した。

タバココナジラミの防除に利用されているボタニガードESやマイコタールなどの微生物農薬を殺菌剤と混用して使用する場合は、微生物農薬の防除効果に影響を及ぼす可能性があります。そこで、これらの微生物農薬と表に示した殺菌剤を混用し、タバココナジラミに対する殺虫効果への影響を調べました。

その結果、両剤とも殺菌剤を混用することによって殺虫効果が低下する事例が認められました。特にマイコタールではダコニール1000、バイレトン水和剤、ストロビー水和剤との混用で強い悪影響が認められま

した。また、ボタニガードESではダコニール1000、トップジンM水和剤(1,500倍)、ジーファイン水溶剤、スミレックス水和剤との混用で比較的強い悪影響が認められました。一方、両薬剤と混用して悪影響が小さかった殺菌剤は、ポリオキシシンAL水溶剤、ロブラール水和剤、イオウフロアブル、トップジンM水和剤(6,000倍)、カンタスドライフロアブル、ベルコートフロアブル、ルビゲン水和剤、トリフミン水和剤の8剤でした。

(昆虫担当 下八川裕司、広瀬拓也

088-863-4915)